「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

◇◆◇　No.0852　◇◆◇　　25/08/06

【　7 月のドル/円は大変動、2 ヵ月連続の動意期待強い　】

先日終了した 7 月相場の変動は 8.15 円（142.69-150.84 円）。途中までかなりの小動きで、「3 ヵ月連続の小動き」も覚悟していたのだが、最後の最後に帳尻を合わせた格好となった。ちなみに、ドル/円の月間変動幅 8.15 円は今年 2 番目の「大変動」になる。
さて、そんな 7 月相場を受けた足もと 8 月相場は果たしてどう動くのか。今回の当レターでは、いつも通り経験則をもとにした「月間見通し」をレポートしておく。

◎気になるユーロ/円の高原推移、「円買い介入」警戒も!?

まずは恒例となっている 8 月の星取表、1990 年以降昨年までの過去 35 年間の勝敗をみてみると、15 勝 20 敗という状況で円高が有利という結果だった。
当レターではたびたびレポートしているように、「8 月は円高有利」との論調はそこここで取り上げられるもの。そして実際、7 月 31 日付の日経新聞でも懲りずに「夏場に円高が進みやすいとされるアノマリー（経験則）は今年の実現が難しそうだ」－－などと報じている。

前述したように、過去 35 年間の勝敗からすると、必ずしも間違っているとは言えないものだが、それほど極端に「円高有利」に傾斜しているわけではない。実際、勝率換算すると 6 割にも満たない数字だ。
また、2015 年から昨 2024 年まで過去 10 年に限れば、戦績はなんと 5 勝 5 敗の五分。あまり「円高有利」という経験則を過信してしまうことは違うという気がしている。

いずれにしても、別の観点から 8 月相場の特徴を見た場合、「動くか動かないか二極化する」ことが少なくない。とくに、近年はどちらか両極端となることがほとんどだ。
たとえば「動かない」ケースを幾つか挙げると、2020 年が月変動間 1.95 円で年間 11 位、翌 2021 年は同 2.08 円でこちらは年間 10 位だった。それに対して、「動いた」ケースは 2022 年がそれにあたり月間変動は 8.68 円で年間 4 位、昨 2024 年は年間 5 位ながら月間変動は 9.20 円－－を記録している。

そして、周知のように振り返ってみれば、今年の 8 月相場は初日から大荒れ。4 ヵ月ぶりの高値に当たる 150 円後半で取引を開始したものの、発表された米雇用統計の悪化もありNY終値は 147 円台だった。つまり、わずか一日でトータル 3 円を大きく超えるドル安・円高が進行した計算だ。
先でレポートしたように、7 月相場が月間変動 8.15 円と大きく動いたうえ、その流れもあり 8 月相場も「ロケットスタート」を切ったようにみえる。ここから先の 8 月相場にも、大きな相場変動を期待せずには居られない。

一方、過去 8 月のニュースや世界情勢を調べてみたところ、為替や金融に関する重要な事象が起こることが少なくないことがわかった。
一例を挙げると、「ニクソンショック（1971 年）」「EMSの通貨調整（1993 年）」「ドル/円が 100.40 円の当時最安値を記録（1993 年）」「ドル/円が 147.64 円のドル戻り高値示現（1998 年）」「ルーブル危機（1998 年）」「1995 年記録のドル最安値 79.75 円を初めて下回る（2011 年）」－－などとなる。

そうしたなか、7 月 16 日付の当レターで報じたように、ユーロ/円はユーロの正式誕生以来の最高値圏で推移しており、そして「ユーロ売り・円買い介入警戒感」も一部で取り沙汰されている状況だ。可能性は低いと考えるものの、実勢相場の状況に経験則を勘案すると、ECBなどがヒョッとして「実弾ユーロ売り介入」に動く危険性もゼロではない気もしないではない。

また、ドル/円に関しても、前段で取り上げた今月はじめ、1 ドル＝150 円台で推移していた局面において、加藤財務相から「投機的な動き含め為替市場の動向を憂慮している」、「為替はファンダメンタルズ反映した安定推移が重要」－－などといった口先介入が久しぶりに聞かれていた。
当然、トーンとしてはまだ初期の初期であり、そしてその日のうちにドル/円は 147 円台まで下落したため、以降口先介入は聞かれていないが、予断を許さないのかもしれない。ドル/円もドルの再上昇から 150 円

台乗せ、といった展開を今後たどるようだと、再び口先介入から。そして実弾介入実施の危険性がジワリと強まりかねないだろう。（了）

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright （C） fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter